

仙台国際音楽コンクールニュースレター

第5回仙台国際音楽コンクール【開催日程】ヴァイオリン部門:2013.5.25(土)~6.9(日) ピアノ部門:2013.6.16(日)~30(日)

第5回仙台国際音楽コンクールピアノ部門評

実力派ファイナリストによる個性の競演

小田島 久恵(音楽ライター)



第5回ピアノ部門のファイナルは、6人のコンテストがそれぞれ違う協奏曲を演奏するという点でも大変ユニークで、コンサートの様な楽しみ方が出来る充実の戦いだった。ファイナリストのレベルは例年以上に高く、大きな期待を集めていた出場者が「まさか」の予選落ちをするというドラマもあったと聞く。直前には、前回(2010年)の優勝者ヴァディム・ホロデンコがヴァン・クライバーン国際ピアノ・コンクールで優勝を飾ったというニュースも入ってきた。今や世界的な大スターとなったコジャ・ワンもこの仙台国際音楽コンクールの出身だ。国際的な知名度も賞の重みもますます増すステージで、ファイナリストたちへの熱い期待が募っているのが、会場からは伝わってきた。

ファイナル初日は、片田愛理、ホン・ジファン(韓国)、ソナ・パク(アメリカ)が登場。日本人唯一のファイナリストとなった片田愛理が演奏したのはリスト作曲『ピアノ協奏曲第1番』。リストのドラマティックな楽想は彼女のフレッシュな個性とともに相性がよく、技巧的なパッセージも堅実な技術で弾きこなしていた。出場者が課題曲から二曲を選択し、そのうちの一曲を運営委員長が決めるのだが、リストの1番が醸し出す清冽で華やかなムードは、片田の個性と非常によく合っていたと思う。好感度の高いパフォーマンスは、(一番目ということもあり)聴衆に鮮やかな印象を残した(第5位)。

シューマンのイ短調のコンチェルトを弾いたのは、最年長26歳のピアニスト、ホン・ジファン。背が高くステージに立つ姿も堂々としており、演奏も情熱的だった。彼のもつ純粋でロマンティックな個性が表出されていたが、やや準備不足を感じる箇所もあり、オーケストラと微妙にズレるタイミングも、まだコンチェルトの経験が少ないのだろう。磨けば

光る未完の大器タイプだ(第6位)。

一日目のラストはアメリカのソナ・パクがラフマニノフの「パガニーニの主題による変奏曲」を落ち着いた表情で演奏した。どちらかというとコンクール向きではない、アピールの難しい曲だが、ラフマニノフ特有のメロディアスな旋律を、情に溺れることなく冷静に表現し、威厳あるオーラで会場を制圧した。審美的な構築性をもって変奏曲を弾き切っていたのも素晴らしい。稀有の知性をもつ演奏家だという印象(第4位)。

二日目は、ソヌ・イエゴン、ソ・ヒョンミン(ともに韓国)とアルテム・ヤシンスキイ(ウクライナ)が演奏を行った。ソヌ・イエゴンは、難曲でありピアニストの魅力を最大に表現できるラフマニノフの第3番を弾いた。緻密で解像度が高く、洗練されたラフマニノフで、アメリカ的な華麗さを感じせる。ディテールに至るまでスコアをよく勉強している真摯な姿勢がうかがえた。1位を獲得したのはこのピアニストであった。

チャイコフスキーのピアノ協奏曲第1番を弾いたソ・ヒョンミンは、メンタルの強さを感じる最終楽章が圧巻。ソヌ・イエゴンと互角の水準という印象だが、彼は2位を受賞した。難しいコーダ部分では、一音も音が割れなかったのが素晴らしい。

ところで、ファイナルの最後に登場し、結果的には3位を受賞したウクライナのアルテム・ヤシンスキイが、今回のコンクールの「主役」の演奏をした、というのが筆者の主観的な感想である。プロコフィエフの第3番の協奏曲を、彼自身の曲のように愛着をもって、沢山のアイデアを盛り込んで弾いていた。このピアニストは作曲もするらしいが、オーケストラを聴いているときの表情も素晴らしく、ロシア語圏の芸術家ならではのプロコフィエフを観客に提示してくれた。コンクールであることを忘れ、演奏に魅入ってしまった唯一の演奏家だった。ヤシンスキイはセミファイナルでの聴衆賞も受賞している。

パスカル・ヴェロは二日間で6曲の個性の異なる楽曲を指揮し、仙台フィルも高い水準でコンテストをサポートした。震災後初めての開催となるコンクールだけに、万感胸に募るものがあったが、ガラコンサートまで会場は連日活況を呈し、音楽愛というユニバーサルな言語で結ばれた人々は、幸せな想いでこの第5回のコンクールを記憶に刻んだのであった。



ソヌ・イエゴン



ソ・ヒョンミン



アルテム・ヤシンスキイ

第5回仙台国際音楽コンクール ピアノ部門審査結果

- | | | |
|----|-------------|-------------|
| 1位 | ソヌ・イエゴン | (24歳 韓国) |
| 2位 | ソ・ヒョンミン | (23歳 韓国) |
| 3位 | アルテム・ヤシンスキイ | (24歳 ウクライナ) |
| 4位 | ソナ・パク | (25歳 アメリカ) |
| 5位 | 片田 愛理 | (20歳 日本) |
| 6位 | ホン・ジファン | (26歳 韓国) |

第5回仙台国際音楽コンクールピアノ部門レポート

第5回仙台国際音楽コンクールピアノ部門の期間中に開催した関連事業「審査委員によるマスタークラス」、「学校訪問ミニ・コンサート」をライターの高坂はる香さんに取材、レポートしていただきました。



熱心に指導して下さったエヴァ・ポプウツカ先生(写真上)とスタファン・シェーヤ先生(写真下)

第5回仙台国際音楽コンクールは、今回も両部門ともに期待の新星が誕生して幕を閉じた。その一方で、期間中、地域の子供たちや音楽を学ぶ若者のために充実した関連事業が行われていたことにも注目したい。世界から気鋭の若者や著名な教育者が集う機会を活かした企画により、コンクールは単に若手発掘の場に留まらないイベントとなっている。

その一つの事業として、予選後の審査空き日に行われる「審査委員によるマスタークラス」がある。ピアノ部門では、世界の著名音楽院で教鞭を執る名教師・ピアニストたちによるレッスンが、6月19日、20日の2日間、2会場で行われた。受講生は、全国から公募により選ばれた24名。各講師が1時間3コマを担当し、濃厚なレッスンを繰り広げていた。

聴講していて印象深かったのは、多くの先生方が「音質」についてさかんにアドバイスをしていたことだ。例えばジュリアード音楽院ピアノ科主任教授のヨヘヴェド・カプリンスキー氏は、力強いフォルテを出すことに気を取られて音質を失うようではならぬことをしきりに伝えていた。また、ブルーノ・カニーノ氏はショパンのバラード第1番のレッスンで、冒頭の音の音質で、演奏者がどんな人で何を考えているかが伝わるものだから、十分な注意を払うようにと力説していた。「冒頭の音」についてはもう一つ興味深いレッスンがあった。ショパン音楽大学で教鞭をとるエヴァ・ポプウツカ氏によるベートーヴェンのピアノソナタ第31番のレッスンでは、かつて巨匠アルトゥール・ルービンシュタインがステージに現れる瞬間から冒頭の音を弾く手の形を準備していたという逸話を紹介しつつ、受講生に繰り返し冒頭の音を弾かせていた。そしてレッスンが作品の中盤に進んでいくも、唐突に「それではさっきの冒頭の和音をもう一度」と立ち戻るのである。限られた時間のうち、どれほどがこの音のために割かれたことか！一音目に魂を

込めることがいかに重要かを意識させられるレッスンだった。

スタファン・シェーヤ氏(スウェーデン王立音楽大学ピアノ/学部長)のレッスンを受けた前原亜友夢さんは、「大学受験を前に、音の質を高めたいと思って受講した。レッスンでは、1曲を通して音楽をどう展開し解決していくのかを考える必要があることを実感した。たくさんのヒントをもらった」と語った。海外の先生のレッスンを受けたのは初めてということで、次々入る鋭い指摘にショックを受けたようだが、充実した内容に表情は輝いていた。

一方、コンクール出場者たちは、会場の外にもフレッシュな音楽を届けた。惜しくも次のステージに進めなかった出場者による、学校訪問コンサートが企画されたのである。こうした場にぜひ出演したいと、仙台滞在を延長する出場者も多い。

6月20日、仙台市立沖野東小学校で行われた「学校訪問ミニ・コンサート」には、仁田原祐さん、野上真梨子さん、チョ・ソンスさんが出演。敏感な耳を持つ児童たちにもつて、ショパンやリストを演奏した。出演者の一人チョ・ソンスさんは、「韓国ではこうした機会はなかなかなく、小学校で演奏したのは初めて。体育館での演奏はホールのような音響が期待できるものではないが、とても素敵な雰囲気、子供の頃に戻りたいという気持ちになった」と、満面の笑顔。コンサートの最後にはチョさんのピアノ伴奏にあわせて(初見での演奏だったそう)、全校児童が校歌を披露した。

仙台国際音楽コンクールはハイレベルな本大会に加え、これらの教育プログラムも支えとなってますます充実している。世界からの注目度も上昇中だ。去る6月にヴァン・クライバーン国際ピアノコンクールで金メダルに輝いた、第4回優勝者のヴァディム・ホロデンコさんは、「自分のキャリアは仙台からスタートした。仙台は大きなきっかけをくれた場所で、とても感謝している。クライバーンコンクールでの優勝が、仙台のコンクールの発展を後押しすることにつながってくれたら」と、熱い口調で語っていた。実際、入賞を足掛かりに飛躍するコンクール出身者を始め、それを見守る地元の聴衆、さまざまな関連事業に参加して刺激を得た若者たちの数は、回を重ねるごとにどんどん増えている。仙台のコンクールを大切なきっかけの場として記憶する人が世界中に広がるのは素敵なことだ。

新しい音楽との出会い、発見の場として、次回以降の開催にも期待が高まる。



沖野東小学校での学校訪問の様子。チョ・ソンスさん(写真下)はこのコンサート出演のため滞在を一日延ばしてくれました。

第5回仙台国際音楽コンクール優勝者記念リサイタル



■ピアノ部門優勝者 ソマ・イエゴン ピアノリサイタル

- ・2013年12月14日(仙台)
- ・2014年6月20日(東京)

◇会場

【仙台公演】日立システムズホール仙台(仙台市青年文化センター)
【東京公演】浜離宮朝日ホール

■ヴァイオリン部門優勝者 リチャード・リン ヴァイオリンリサイタル

- ・2013年12月6日(仙台)
- ・2014年6月19日(東京)

※詳細は後日発表します。



コンクール熱演をYoutube配信中!!

予選から入賞者記念ガラコンサートまでの演奏をYoutubeで配信しています。(配信は9月末まで)
http://www.simc.jp/video_feed/index.html

最新情報はFacebookから

仙台国際音楽コンクール公式Facebookでも最新情報を配信!ぜひ「いいね!」をクリックしてください!
<https://www.facebook.com/SendaiInternationalMusicCompetition>

